

H29年8月

～多く読まれている本の紹介～

1. X線・(造影)X線検査のマネジメント 2002年11月 医薬ジャーナル社  
X線や造影検査を受ける方が読んでおられます。X線は、ドイツの物理学者W.C.レントゲンが1895年11月4日真空放電の実験中に発見。そして、1901年に第一回ノーベル物理学賞を受賞しました。そのおかげで、私達は恩恵を受けていますね。
2. 聖路加国際病院の愛情レシピ 2013年11月 永岡書店  
「大事なのは、健やかさを感じて生きていく事」・・100歳まで動けるからだを作るレシピ本。女性に人気です！
3. 家庭で出来るリハビリテーション 2013年5月 法研  
患者さんは、入院中は理学療法士の手を借りて回復訓練をしますが、自宅では、自分自身で考え、生活の中で工夫をする必要に迫られます。この本は、具体的で家族と共に家庭で出来る内容になっています
4. 乳がんのベストアンサー 2013年11月 主婦と生活者  
放射線療法や化学療法を受ける前に借りたり、読んだりされています。最近話題になった女優さんの遺伝性の乳がんでは、家系内に乳がんと診断された人が複数居る、若い年齢(40歳以下)で発症する、両側の乳房に出来たり時期を置いて新たに別の乳がんが発症したりする、卵巣がんを合併する、などの特徴がみられます。忙しいと言っていないで、がん健診をお勧めします。
5. 手足のしびれ、歩きにくい症状がある方に 2007年11月 南江堂  
診療ガイドラインをもとに一般の方が読みやすい言葉を使い書かれています。診断方法や手術について、また術後の経過も書かれています。この症状で困っておられる方が多いです。

～子育てカフェを開きました～

去年、言語リハビリに通院している子供をお持ちのお母さんが、子供のことを色々聞いてもらえると気持ちが楽になると言われていたことがありました。そこで、先日、臨床心理士の方と相談して気楽なカフェのように話せる場を設けてみようと、リハビリ科の協力を得て、数人集まっていただきました。皆さん、共通の悩みと子育ての難しさを臨床心理士の方に話されていました。お母さん同士の話も弾み、怒りあり、笑いありであっという間の時間でした。患者図書室には、お母さんたちに参考になりそうな本を入れてありますので、ぜひ参考にお読みください。